

日本医学教育歴史館



日本医学教育歴史館設立の趣旨

第28回日本医学会総会(会頭:矢崎義雄 国立病院機構理事長、副会頭:小川秀興 学校法人順天堂理事長他、準備委員長:永井良三 東京大学教授(当時の役職を記載。以下同様))における企画展として、国立科学博物館で『医学教育史展—歴史で見る日本の医師のつくり方—』が、平成23年2月~4月に開催されました。

本企画展は、日本医史学会理事長酒井シヅ教授、順天堂大学新井一医学部長をはじめとするワーキンググループにより企画され、国立科学博物館の全面的な協力を受けて、日本の医学・医療の歴史の中で近代日本における医師や医療従事者の「人と技」の育成がいかに成されたかを検証し得る歴史展として開催されました。東日本大震災により、途中休館もありましたが、多くの方々にご来場いただき、医療分野だけでなく各方面から高い評価をいただきました。

この度、順天堂は創立175周年記念事業の一環として、上述の日本医学会総会『医学教育史展』の内容を保存し、また、これをさらに充実したものとし、日本の医学教育の歴史を資料等により検証できる本邦初の「日本医学教育歴史館」を開館する運びとなりました。

この「日本医学教育歴史館」は、医師を目指す学生のみならず多くの医学教育に携わる方、並びに一般の方々に広く興味を持っていただける施設になることを願っております。

平成26(2014)年4月10日

学校法人順天堂 理事長

公益財団法人医学教育振興財団 理事長

小川 秀興

医史学教室 特任教授

一般社団法人日本医史学会 前理事長

酒井 シヅ

近代医学への接触

I



近代西洋医学の本格的導入

1860年~

II



近代医学教育の普及とボトムアップ

1880年~

III



社会的要請で増減した医学校

1910年~

IV



米英医学の移入

1945年~現代

V



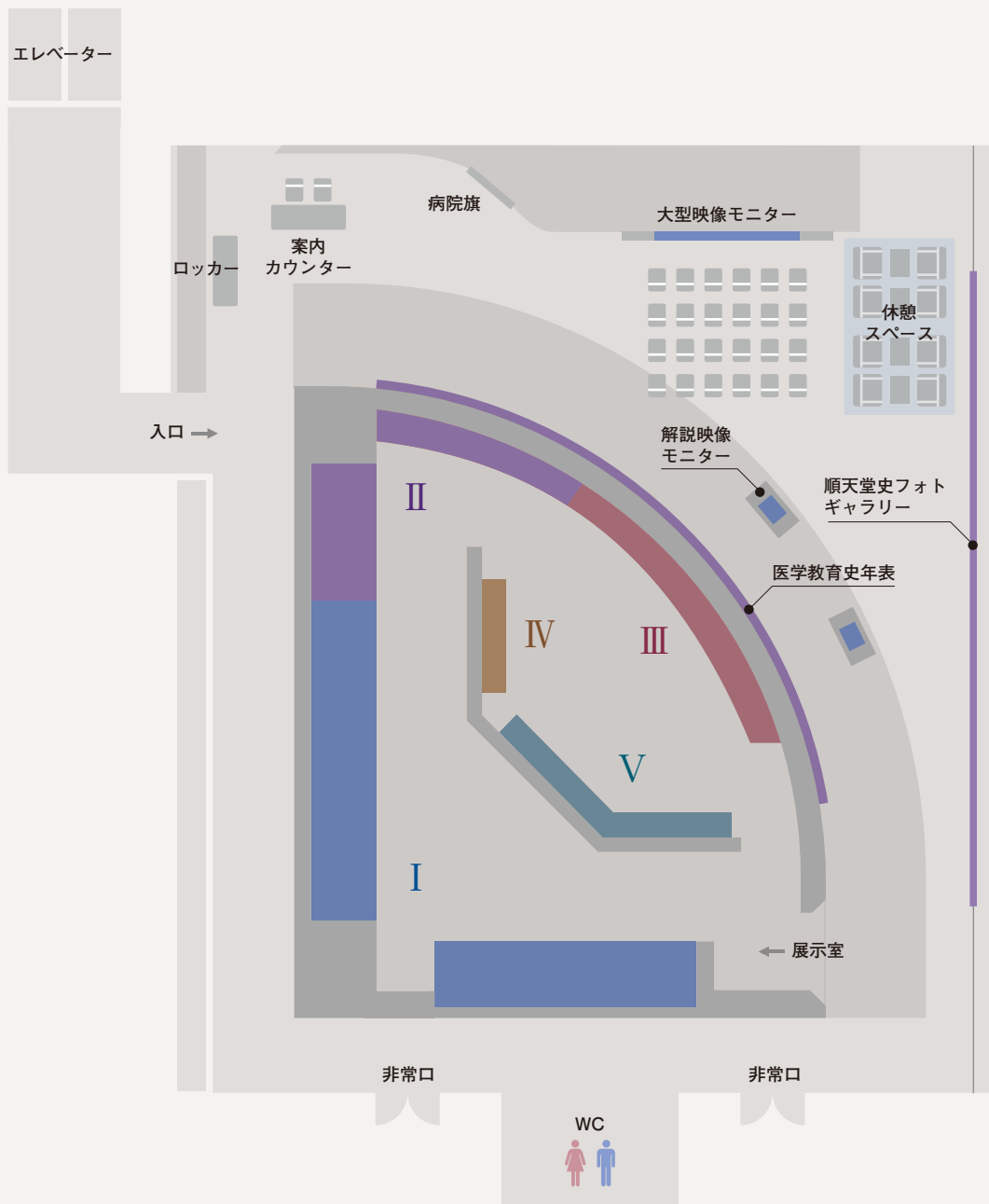
日本医学教育歴史館入口

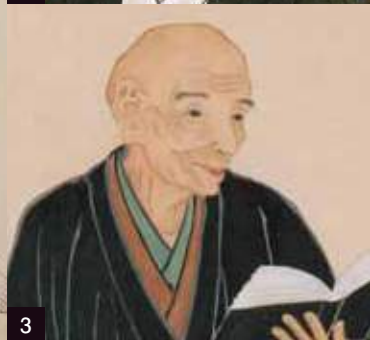
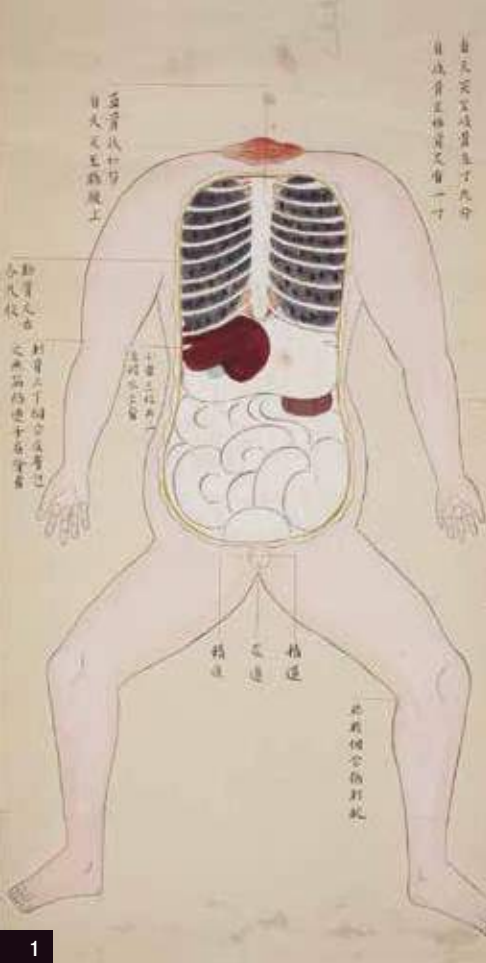


医学教育史年表



順天堂史フォトギャラリー





↑乳癌摘出術 1000 疋、卵巣水腫開腹術 10 両、割腹出胎児術（帝王切開）10 両など高価な手術が行われた。



↑1855 年（安政 2）に順天堂で行われた手術に患者が提出した承諾書。内容は親類一同相談のうえ、手術を受けることを決めたので、万一不幸な結果になっても恨まない」と記す。

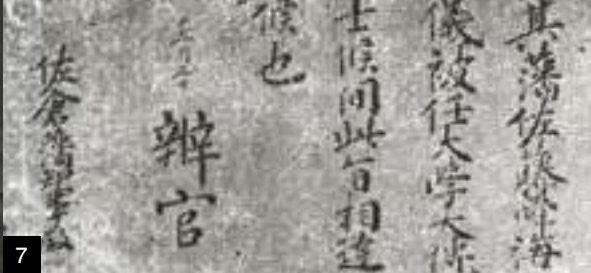
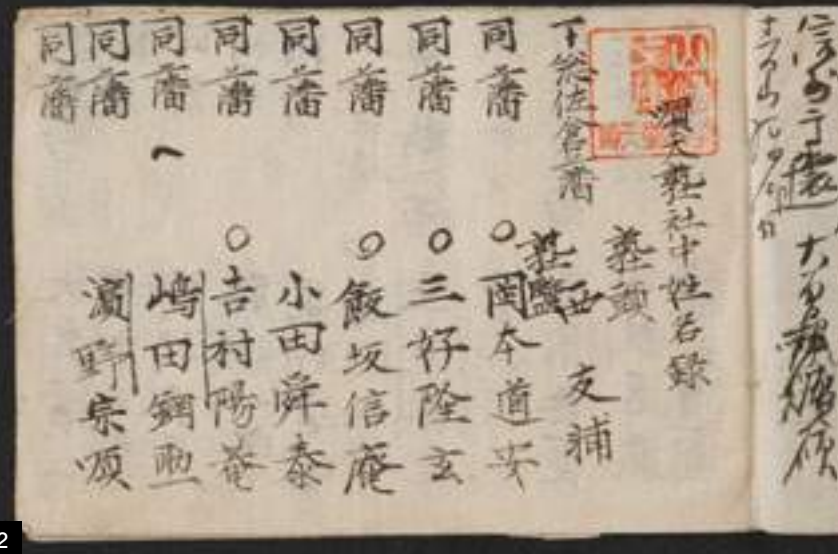


I 近代医学への接触

我が国の医学は 7 世紀に中国医学を受け入れてから、明治維新までいわゆる漢方ならびに和方が主流であった。西洋医学が日本に到来したのは 16 世紀であったが、それはキリスト教と共に世界中に布教されていた近代以前の西洋医学であった。ヨーロッパで医学が近代化へ歩み出したのは 16 世紀である。それが日本に到達したのが江戸中期。人々はまず写実的な西洋解剖図に驚いた。日本古来の五臓六腑との違いを確かめることから始まり、『解体新書』の翻訳出版が行われ、各地で人体解剖が行われるようになった。そして西洋医学の解剖図が事実にも忠実であることを知った。そこから西洋医学への関心は一気に高まり、江戸後期から蘭学が興隆して、近代医学受容の用意を整えて明治時代に入っていった。

1. 山脇東洋「蔵志図」
2. 山脇東洋 (1705-1762)
3. 杉田玄白 (1733-1817)
4. 杉田玄白「解体新書」
5. 順天堂療治定（外科治療代金表）
6. 佐藤泰然 (1804-1872)
7. 佐藤泰然宛の「手術承諾書」
8. 緒方洪庵 (1810-1863)
9. 適々齋塾門人録

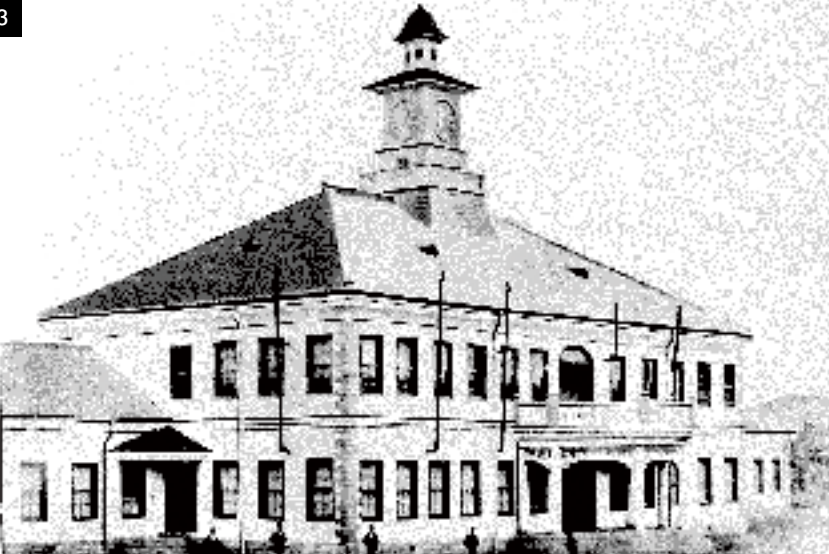


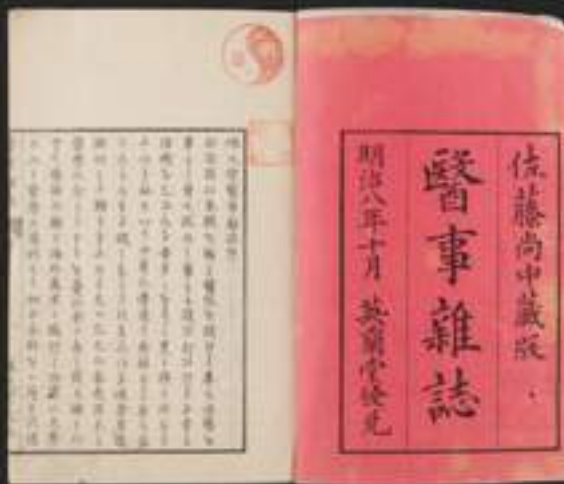


II 近代西洋医学の本格的導入

安政4年(1857)長崎にオランダ海軍軍医ポンペ・ファン・メルデルフォールトが医学教師として着任した。幕府医師松本良順が学生代表となり、西洋医学の本格的教育が始まった。日本の近代医学教育の始まりである。明治維新後、政府は日本の医学を漢方に代えて西洋医学とすることを定めた。戊辰戦争で活躍した英人医師ウィリスを教師に迎えたが、明治2年、ドイツ医学の採用を決めてウィリスを鹿児島に送り、佐倉順天堂より佐藤尚中を大学東校の大学大博士(責任者)に迎えた。尚中は大勢の学生を入学させ、西洋医学の短期普及を図ったが、明治4年(1871)に着任したミュルレルとホフマンは、まず全ての学生を退学させ、少数の学生を再入学させた。東大医学部の第一回生である。佐藤尚中は東京に順天堂を設立し、また済生学舎、済衆舎などを設け、広く全国から学生を受け入れ医学教育に尽力した。

1. 長崎養生所
2. 順天塾社中姓名録
3. 東京大学医学部本館
4. J.L.C. ポンペ・ファン・メルデルフォールト(1829-1908)
5. ポンペと松本良順(着席者)、その弟子たち
6. 佐藤尚中(1827-1882)
7. 佐藤舜海(尚中)へ大学大博士に任命した辞令
8. レオポルド・ミュルレル(1824-1893)
9. テオドール・ホフマン(1837-1894)





II 近代西洋医学の 本格的導入

政府はミュルレルらに続いてベルツなど「お雇い外国人教師」を次々と雇うと同時に、ドイツ留学制度を始めた。留学生たちは帰国後、お雇い外国人教師に代わることが約束されていた。既にベルリンに留学中であった順天堂の佐藤進や初代東大医学部長池田謙齊は、最初の留学生となった。進はベルリン大学医学部を卒業して明治8年(1875)に帰国した。佐藤尚中は、ミュルレルらによって東校を退学させられた医学生たちのために、有志とともに私立病院を作り、教育に当たった。その一つが私立医学校済生学舎である。佐藤進は順天堂に在職のまま西南戦役軍医頭、日清・日露両戦争の軍医総監、東大の第1、第2病院長も兼務し、近代臨床医学教育を推進した。

1. 奥羽追討陸軍病院の病院旗

2. 佐藤進 (1845-1918)

3. 佐藤進「外科通論」

4. 「順天堂医事雑誌」(明治8年創刊)

5. 東校(東大)「治験録」

6. エルウィン・フォン・ベルツ (1849-1913)

7. ベルツ「内科病論」

III 近代医学教育の普及と ボトムアップ

1880年代、ほとんどの県に病院が設けられ、医学校が敷設された。また、各校のレベル統制のために医学校を甲、乙種に分け、甲種医学校は3名以上の教員が医学士（東大医学部卒業）であることを条件とした。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 日光顕微鏡（19世紀 英国製） | 8. 吉岡彌生（1871-1959） |
| 2. エレキテル治療器 | 9. 野口英世（1876-1928） |
| 3. 医術開業試験合格証 | 10. 上條秀介（1893-1956） |
| 4. 長谷川泰（1842-1912） | 11. 戦前の東京大学の看護学講義録 |
| 5. 高木兼寛（1849-1920） | 12. 第二次世界大戦時の日本赤十字社看護婦 |
| 6. 北里柴三郎（1853-1931） | 13. 医師国家試験模範回答集 |
| 7. 青山胤通（1859-1917） | |

1



2



3



4



5



6

IV 社会的要請で 増減した医学校

1910年代になると、帝国大学医科大学、官立医科大学、私立医学専門学校と3種類の医学教育機関が並立する中、医育統一論の意見が強まっていた。しかし、関東大震災や第二次世界大戦の激化によって医学教育専門学校の林立が続いた。

V 米英医学の 移入

終戦後、医学はGHQ/SCAPの公衆衛生福祉局の指令を受け大きく変わり、医学教育はドイツ語から英語に変換した。1947年には国立第一病院を模範病院に選定し、病院管理研究所を発足し、全国の病院長を集めて病院経営の教育が行われた。



7



8



9



10



11



12



13



順天堂大学 日本医学教育歴史館

ご利用案内

開館日 毎週 火曜日・木曜日（都合により休館となる場合があります）

開館時間 13:00~15:00

入館料 無料（※事前予約制）

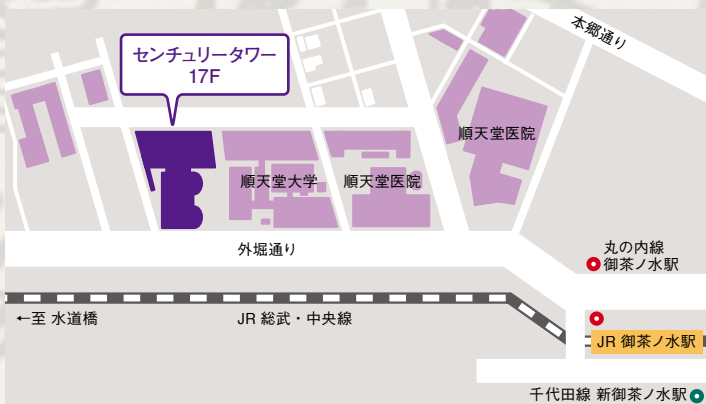
交通案内

〒113-8421

東京都文京区本郷 2-1-1 センチュリータワー 17F 北

JR 中央線／東京メトロ丸の内線「御茶ノ水」下車 徒歩7分

東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」下車 徒歩9分



お問い合わせ・見学予約申し込み

TEL 03-5802-1730

FAX 03-3814-9100

<http://www.juntendo.ac.jp/jmehm/>